

基本方針

『文化観光』というアプローチを通じ、**世界の人々と交流を作り、陶磁器文化の魅力・価値を体験的に発信・訴求できる場を増やす**ことで、佐賀県の陶磁器のブランド力と文化的価値の向上に繋げ、陶磁器産業全体の発展と振興を後押しする



<主な課題>

世界に誇る文化資源を有しているにもかかわらず、その価値や魅力が分かりやすく整理・編集され、十分に発信されていない

①

文化体験の不足

人・歴史・文化・自然・建物等のポテンシャルを活かした来訪者の理解と共感を深める**「深い文化体験」**が不足



②

宿泊・移動手段の未整備

通年での目的地化が進んでおらず、滞在につながる魅力的な**「宿泊施設」**の不足や**「移動手段」**の未整備



③

ガイドの不足

陶磁器文化の背景や価値を伝える、文化発信・観光案内の**「語り部」**(ガイド・コンシェルジュ)が不足



④

プロモーションが不十分

文化への関心層が高い海外層を呼び込むための、**「旅行会社等との連携」**が不十分かつ**「国際発信力」**が不足



<取組概要>

世界の文化創造拠点ARITAプロジェクト

- ✓ 事業期間:令和7年度~11年度(予定)
- ✓ 事業対象エリア:有田町・伊万里市・唐津市・嬉野市・武雄市 ※まずは有田を中心に事業実施
- ✓ 誘客ターゲット:
主に欧米を中心とし、地域の伝統文化の発展・継続に寄与する旅に関心が高く、体験価値に正当な対価を払う文化関心層

1 自走化に向けた体制・しくみづくり Momentum Makers of ARITA (有田改革者)

プロジェクト終了後も、文化(次世代への継承・創出)・観光(交流)・産業(収益の多層化)の好循環を生み続けるしくみづくりや自走化に向けた体制を構築

2 ARITAの磨き上げ The Living Museum ARITA Project (生きたミュージアムARITA)

基盤:文化資源の魅力・価値の可視化 世界の文化人による価値発掘 ~ ストーリーとして再編集 ~ デジタルアーカイブ化
体験:「佐賀県立九州陶磁文化館」のゲートウェイ化 (魅力強化による目的地化/有田町内・周辺地域への回遊促進)
世界との交流が生まれる「深い文化体験」の整備(有田町)
宿泊:陶磁器文化を体感でき、文化の入り口となる「宿泊施設」の整備(有田町)
移動:有田町内・周辺地域へつなぐ「移動手段」の整備
ガイド:地域と旅行者の“架け橋”となり滞在価値を最大化する「ガイド・コンシェルジュ」の育成・セミナーによる機運醸成

3 ARITAを起点とした周遊促進 Beyond ARITA Project (有田の先、佐賀の真髄へ)

体験:世界との交流が生まれる「深い文化体験」の整備(伊万里市・唐津市・嬉野市・武雄市)~有田を起点とした周遊ルート造成
プロモ:世界の文化関心層の誘客促進プロモーション(旅行会社・メディアのファムトリップ、ブランドサイトの制作など)

<10年後に目指す姿>

「世界の文化創造拠点ARITA」

世界中から感性豊かな人々がARITAに集い、陶磁器文化を核に交流と学びが広がっている。交流を起点に、文化・食・アートなどの融合が進み、佐賀の陶磁器のブランド価値が高まり、産業が持続的に成長。住民も担い手となる次世代の**文化創造拠点**として、ARITAを起点に佐賀県全体へ新たな交流と文化が広がることを目指す。

旅行者にとって

- ① 何度来ても、新たな発見・学び・購買ができ、旅の満足度が向上
- ② 本質的な価値に触れ、深い文化理解、自己変容につながる
- ③ 共感者としてARITAの文化継承に貢献できる



事業者にとって

- ① 収益の多層化
- ② 陶磁器のブランド力の向上
- ③ 交流による新たなビジネスや革新の創出
- ④ 新たな人材の確保・定着化
- ⑤ 誇りと文化継承意識の向上



住民にとって

- ① シビックプライドの醸成
- ② 新たな働く場の獲得
- ③ 地域への支援者の獲得
- ④ 町全体が子ども達の学び場
- ⑤ 暮らしの質の向上



世界の文化創造拠点ARITAプロジェクトについて

(参考)九陶の文化観光ハブ拠点化

有田を目的地とする誘客促進プロモーション

周遊地域への回遊

